

市政ニュース

NOMOBEEスボールクラブの本拠地 豊岡市に移転決定

5月31日、NOMOBEEスボールクラブの本拠地を豊岡市に移転することを、同クラブ理事長で元大リーグの野茂英雄さんと中貝市長が発表しました。

移転は、10月以降の予定で、市内では「こうのとりのスタジアム」(戸牧)を中心に、植村直己記念スポーツ公園野球場(日高町野)、出石総合スポーツセンター野球場(出石町福住)、県立但馬ドーム(日高町名色)の4球場を利用する予定です。野茂さんは「NOMOBEEスボールクラブは、チャンスが与えられない子にチャンスを与え、プロ野球選手になってもらうことが活動の基本であり、一人でも多くのプロ野球選手を輩出できるように豊岡市で頑張っていきたいです。豊岡市に移転することを決めた理由は三つあります。一つ目は、年中野球ができる環境



▲記者発表で握手する野茂理事長(右)と中貝市長(左)

があること。二つ目は、豊岡に来て人と会って熱意を感じたこと。三つ目は、コウノトリの野生復帰プロジェクトを聞き、ここなら私たちがやっていけるのではないかと感じたことでした。中貝市長は「ひたむきに野球の夢を追い求める皆さんを豊岡の一員として迎えることをうれしく思います。市民を挙げて歓迎し、応援し、苦楽を共にしたい。地域の野球のレベルを上げることや子どもたちが夢や希望を持つことに貢献いただけると思っています」とコメントしました。

北近畿豊岡自動車道八鹿日高道路

・日高豊岡南道路起工式開催

但馬・丹波各市町、兵庫県、地域住民一丸となった要望活動が実り、本年度から、北近畿豊岡自動車道の八鹿日高道路(日高豊岡南道路)の工事(八鹿水ノ山IC) (仮)豊岡南ICの区間 約15・8キロメートル)が開始されることになりました。

5月26日、起工式を日高町祢布のIC予定地で開催し、事業の推進、工事の安全を願うとともに、一日も早い完成



▲起工式で鉄入れをする関係者

に向けた機運の盛り上がり内外にアピールしました。当日は、式典の後、地元神楽が披露されました。

金融機関と市が力を合わせて経済活性化を図る 株式会社但馬銀行と豊岡市との連携協定調印式開催

6月4日、株式会社但馬銀行(頭取 倉橋 基)と豊岡市は、市内事業者に対する支援活動に連携して取り組み、経済の活性化を図るための協定を締結しました。

本市が経済活性化のために金融機関と連携協定を締結するのは初めてであり、株式会社但馬銀行も地方自治体と連携協定を締結するのは初めてのことです。



▲調印式での但馬銀行本店営業部長 加藤幹夫さん(右)と中貝市長(左)

主な市政の動き

〔5月〕

- 14日・国内初の放鳥コウノトリ3世(ひな)確認
- 18日・豊岡市経済連絡会議発足
- 19日・北但大震災メモリアル事業開催
- 20日・市の記念日「生きもの共生の日」
- 「障害者日本縦断駅伝」応援(21日)
- 24日・「江差追分」感謝の旅「北前船寄港地訪問」来訪
- 26日・北近畿豊岡自動車道八鹿日高道路・日高豊岡南道路起工式
- 30日・チャレンジデー2012参加
- 31日・NOMOBEEスボールクラブの本拠地を豊岡市に移転と発表

〔6月〕

- 2日・植村直己冒険賞授賞式記念講演会
- 3日・日曜納税相談・納付窓口開設
- 4日・株式会社但馬銀行と本市との連携協定調印式
- 7日・野外での今年初のコウノトリのひな巢立ち

夏季用ポスター、チラシの写真撮影に
イメージキャラクター 谷村新司さん来訪



5月25日、谷村新司さんをイメージキャラクターとするJR西日本の50歳からの旅クラブ『Club DISCOVER WEST』

の夏季用ポスター、チラシの写真撮影が市内で行われました。今回の撮影場所選ばれた

スポットは、ポスター用が玄武洞公園の「青龍洞」、チラシ用は出石の「辰鼓楼」で、旅する谷村さんの背景に使われます。ポスターやチラシは、7月から9月までJR西日本エリアの主な駅や関連施設などに置かれるほか、WEBサイトにも掲載され、本市のさまざまな魅力が紹介されます。

谷村さんは本市の印象を「以前にもライブで来たことがあり、その時に良い気が、また良い空気が流れているところだと思っ

た」と言い、さらに「地方に行った時の楽しみは、想像もしていなかった景色に会えたり、その場所ならではの食べ物を食べたり、地元の方と触れ合うこと」と話していました。



▲谷村新司さん(右)と市のマスコット「玄さん」

「がんばろう日本、僕らは」のエールを送りながら
「障害者日本縦断駅伝」を応援

障害者が、自転車やハンドサイクル、車椅子で、札幌市から那覇市を目指しタスキをつないでいく「障害者日本縦断駅伝」が行われ、5月20日から21日にかけて、豊岡市内を通過しました。この区間には本市在住の6人も走者として参加しました。

5月20日、中川副市長が下宮の中継所で走者を出迎え、

駅伝コース沿いには、市内小中学生らがメッセージを書いた応援旗約150本や応援横断幕が並び、多くの市民の皆さんが盛大な声援を送りました。



▲駅伝ランナーの皆さんと声援を送る市民ら

中貝市長の徒然日記 ⑤

NOMO 顛末記

NOMOベースボールクラブが豊岡にやってきました。元大リーガーの野茂英雄さんが、若い人たちにプロ野球へのチャンスを与えようと設立した社会人野球チームです。

堺市が本拠地でしたが、球場を高速道路が通ることになり、新たな拠点を探していました。

今年10月から11月ごろには豊岡に移転する予定です。豊岡の市民球団ができます。

経緯は、こうです。奈良県内の事務所で働く男女2人の方が仕事で堺市に行きました。男性はNOMOベースボールクラブ清水監督の先輩で、そのことを知っていた女性の提案でクラブを訪問することになりました。たまたま野茂さんがおられて、クラブの移転先を探していることを知りました。女性は豊岡の大ファンで、小学生のお嬢さんはコウノトリの大ファンで、豊岡に来たこともありました。「移転先に豊岡はどうですか？」

さらに女性は、縁のあるヴィッセル神戸の関係者に話を持ち込みました。ヴィッセルも豊岡と縁の深いチームです。そこから旧知の市の職員に情報もたらされ、私の手元に届きました。誘致活動が極秘でスタートしました。今年1月のことでした。2月には監督らに球場を見てもらい、4月には野茂さん自身の視察もありました。そして5月末に正式決定となりました。まるで、パスがするするとながつながって、「ゴール!」となったような感じです。

コウノトリファンクラブ会長の柳生 博さんに報告すると、「野茂さんと豊岡?そんなこと、誰も予想しないよ。なんて素敵なミスマッチ!」野茂さんから「前向きに検討したい」と話があった4月上旬。野茂さんにあるメンバーが「なんだってこんなまちが気に入ったのですか?」と尋ねました。「それは彼です」。野茂さんが指差したその先に、誘致担当の市職員が驚いた顔で立っていました。これは、うれしかったです。